



世良鉄工株式会社

業種	製造業	事業所所在地	北海道上川郡当麻町	資本金	10,000千円
				従業員数	10名

 	被承継者（左）	
	三浦 順孝	70歳 ※承継時
		承継者（右）
		三上 正幸
事業承継を行った時期		被承継者と承継者の関係
2017年	3月	その他親族（義理の息子）
承継前の主たる事業の内容		承継前の主たる事業の課題
一般木造住宅用建築材料である1階床下鋼製梁の製造、販売		・新商品・新サービスの開発 建築材や自動車等で多く使われつつある、高耐食被膜鋼板に対する溶接加工方法の確立・製品開発

事業承継を実行するまで		
きっかけは？	承継計画の立案	承継までの不安と準備
承継実行の 4年前 取引先との業務の打ち合わせや必要な設備投資等について、徐々に承継者に決裁権を移していきました。特にISO9001の規定の中で業務分掌を明確にし、個人としてではなく役割に対する業務の役割を明確にしました。	被承継者と承継者で話し合ったこと 社内体制の確立と承継後の事業への取り組み方 関係者との調整 取引先に対する説明や窓口の変更 金融機関への承継時期の説明	被承継者の承継に対する不安 取引先の継続や金融機関の融資等に影響がないかという面での不安が大きかった 承継者の承継に対する不安 会社としての責任が自分自身に大きくかかってくるので、社内での業務引継、人材教育が間に合うかという不安

これに一番苦労した！

一度事業を承継する決定は両者でしたが、時期についてあいまいな形で進んできたため数度延期になり準備しきれない部分がありました。また、承継については承継者から話をすることが難しい話題であり、被承継者からのアクションを待つ形ではか進めることが出来ないため、間に第三者の金融機関に入ってもらわないと進めづらい部分がありました。

事業承継について相談したこと	
相談機関の業種	承継に関して受けたサポート内容
金融機関（銀行）	金融機関から提案を受けたのは株式会社の持ち株の問題でした。承継以前は代表者である被承継者が80%以上を保有しており、また長年の内部留保により株価が創業時に比べかなり高額になっていました。直近ではないにしろ高額の株を業務とともに承継するのは多額の相続に関する支払い(相続税・贈与税)が派生します。このため銀行及び紹介いただいた税理士にお願いし、①株の評価、②承継がスムーズに進む税制制度の紹介、③株の移行スキームを組んでもらいました。相続税の猶予制度や相続時精算課税等の制度を使用し、また話しにくい話題である承継の打合せ時に間にあっていただきました。
いつから相談？	
承継実行の 4年前	
相談のきっかけ	
以前から取引につきあいあり	

新たな取組の標題

高耐食性表面処理鋼材での溶接建築材料の製作

新たな取組みの内容	商品の新たな生産又は販売の方式の導入
-----------	--------------------

- 高耐食鋼板に対して溶接欠陥を無くするために溶接の条件変更等を行ったが根本的な解決に至らなかったため、溶接工程で発生したガスに内在する溶接金属の除去を行うことによって溶接欠陥を解消することに成功しました。
- しかし、溶接時に発生した飛散金属を一カ所の溶接ごとに除去する場合、多大な時間と人の手による作業が発生し、量産化・工業規格製品として製造するにはコストが合わないという課題が判明しました。
- そこで、現在使用しているロボット対応溶接機の新たな技術として開発された「シンクロフィード溶接システム」を本補助金で導入しました。
- このシステム導入により飛散金属の削減、除去工数と最終溶接までの自動化に成功し、よりコスト削減をした製品製作が可能になりました。



地域経済やバリューチェーンへの貢献	補助対象経費の内訳		
新たな取組みである新素材の溶接設備を製造工程に組み込むことで、製品品質を上げ「良好な溶接」という付加価値をつけることで遠方の納品先にも運賃を勘案しても取引メリットが発生し製品採用頂くことが出来ました。また、弊社で働く人材である地域の雇用を守ることが出来、製品の溶接等の技能知識向上にもつながりました。	<table border="1"> <tr> <th>経費の主な使い道</th> </tr> <tr> <td> 設備費 (シンクロフィード溶接システム費) </td> </tr> </table>	経費の主な使い道	設備費 (シンクロフィード溶接システム費)
経費の主な使い道			
設備費 (シンクロフィード溶接システム費)			

認定経営革新等支援機関から受けたサポート内容			
<input checked="" type="checkbox"/> 制度内容の理解	<input type="checkbox"/> 事業計画の立案	<input checked="" type="checkbox"/> 各種提出書類の作成	<input type="checkbox"/> 補助事業の実施

一般社団法人旭川産業創造プラザから本補助金の制度内容を説明していただき、課題に対する設備や手法、導入計画をサポートいただきました。

今後に向けて～次の目標	
2018年から2021年に向けて	今回、本補助金により導入したシンクロフィード溶接システムにより、現在建築材料で広く使われている高耐食鋼板を使用した溶接製品を今後も商品化して自由な形状かつ品質の良い製品の普及に努めていきたいと思っております。北海道という地理的な問題で輸送コストに悩まされる道内企業は多数ありますが、製品に付加価値をつけることでハンデを克服し、販路の拡大につなげたいと思っております。
売上高	30% UP

これから事業承継に取り組む事業者の方々へ	
被承継者からの一言コメント	承継者からの一言コメント
株価が昔より変動していて大変驚きました。事業の承継はもとより株の承継がこんなにも大変かと感じました。スムーズに承継していくためには株の承継はどうしても必要なものため、金融機関や税理士等に相談してみることで方法がわかる部分もありました。	承継はいずれ時期が来るものではありませんが、取組むべきことは思った以上に多くあると感じました。できる事であればなるべく早い時期から取組み、必要な課題を段階を踏んで超えていくことが望ましいかと思っております。ただ、話題としてこちらから話をすることが難しい面もあるため、金融機関等の第三者を介した方が話を進めやすいかもしれません。